

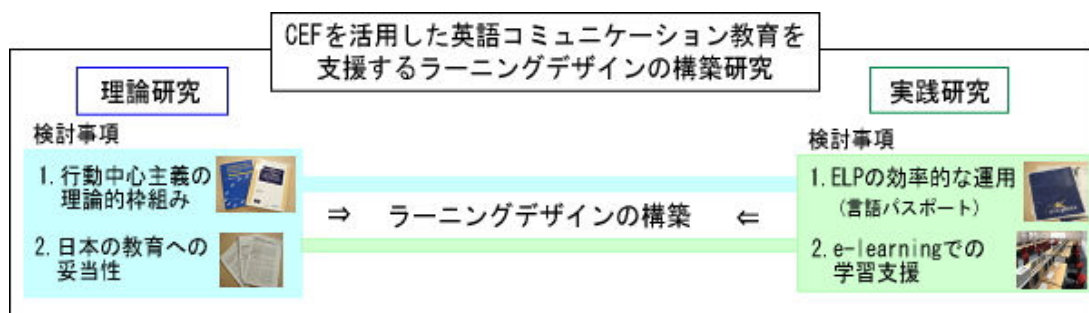
報告タイトル	CEF を用いた英語コミュニケーション能力育成の学習デザイン研究
報告者所属名	専攻名:メディア社会文化専攻・基盤名:独)メディア教育開発センター
報告者氏名	石橋 嘉一 (ISHIBASHI YOSHIKAZU)

近年、グローバル化が進むにつれて、国際共通語としての英語でのコミュニケーションを取る必要性が増してきている。そこで大切なことは、コミュニケーションに関わるメッセージの送り手と受け手における双方が、相互理解の基に適切に意思の疎通ができ、必要な情報を得たり、双方の目的を達成できるということである。そのような母語以外の言語での実践的なコミュニケーション能力を育成するためには、シラバス、カリキュラム、学習目標、熟達度、教材、評価などを包括する総合的なラーニングデザインが必要である。

2001 年、Council of Europe により作成された外国語教育のための参照枠組、CEF(Common European Framework of References for Languages: Learning, teaching, assessment)は、英語コミュニケーション能力育成の包括的なラーニングデザインとしての資質を備えている。その理由は、CEF が、(1). 行動中心主義(Action Oriented Approach)に基づく人が社会的に必要とされる課題を遂行できるコミュニケーション能力の育成を目的としていることと、(2). 学習目標、学習過程、コミュニケーション活動等とは何かという言語教育における重要確認事項を明記し、同時に学習工程における熟達度を提示しているからである。また、CEF は ELP(European Language Portfolio)という学習者が学習過程を記録できる教育ツールが併設されており、理論と実践が教育的にうまくデザインされていることも挙げられる。

CEF は、英語コミュニケーション教育のラーニングデザインとしての資質を備える一方、記述の曖昧性や実用面からの問題点が指摘されている一面もある(Alderson, Figueras, Kuijper, Nold, Takala & Tardieu, 2006)。また、CEF を実際に運用するためには、具体的な方法論を必要とするが、CEF は教条的な指針ではないので方法論は提示されていない。したがって、現場の指導者が CEF の「どの部分を、どのように使用するのか」を探求していかなければならないのである。そこで本研究では、英語コミュニケーション教育において、CEF を活用しどのように学習者の学習過程を支援していくことができるのか、そのラーニングデザインの構築を行うものとする。

上述の研究内容の概念的関係を下に図示する。



現在は、先行研究調査とケース・スタディの収集を中心に研究を進めている。